

川崎港コンテナターミナル

脱炭素化の取組主体	主な取組内容
川崎市	港湾脱炭素化推進計画の策定、構内照明のLED化、インバータ方式のガントリークレーンの導入
横浜川崎国際港湾・川崎臨港倉庫埠頭共同事業体	CO2フリー電力の導入
東洋埠頭株式会社	水素換装型トランスファークレーンの導入

[ターミナル概要]

川崎港コンテナターミナルは、現在バース延長680メートルのうち431メートルが整備されており、水深は－14メートル、5万トンクラスの船舶に対応できます。全長200メートルクラスの船舶であれば、2隻同時に接岸し荷役することも可能です。CO2フリー電力や水素換装型トランスファークレーン等を導入するとともに、構内照明のLED化を進める等、環境負荷低減に向けた取組を積極的に行っています。



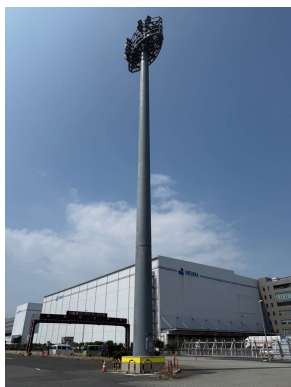
CNP Certification

認証レベル

Level 4 +

(認証日 令和7年9月25日)

CO₂排出量原単位
5.08 kgs CO₂ / TEU



構内のLED照明
構内全域において照明のLED化を推進中



CO2フリー電力で動くインバータ方式のガントリークレーン
令和4年から港内使用電力のCO2フリー化を実施



水素換装型トランスファークレーン
荷役機械の脱炭素化を目指し、現在2基導入